

平成 29 年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : 富士通(株)、北陸先端科学技術大学院大学、SMK(株)
研究開発課題 : IoT共通基盤技術の確立・実証
課題Ⅱ 効率的かつ安定的なIoTデバイス接続・エリアネットワーク運用管理技術の確立
研究開発期間 : 平成 28 ～ 30 年度
代表研究責任者 : 高橋 英一郎

■ 総合評価 : 適

(評価点 17 点 / 25 点中)

(総論)

W3CにおけるWoT WGの立ち上げ等、標準化に向けての取組は高く評価できる。

標準化活動と並行して、ビジネス化を視野に入れた成果展開のため、ビジネスプロデューサーを中心に、ビジネス化に向けた研究開発実施のワークフローを策定し、課題間で共有した上で研究開発を進めることが望ましい。

(コメント)

- 標準化に向けての取組は高く評価できる。
- ビジネスモデルについて容易ではないが、全体としては期待できる方向性である。
- W3CにおけるWoT WGの立ち上げや、スマートIoT推進フォーラムにIoT-OAMアドホックグループを設置し、検討を進めていることは重要なことだと思うが、当該システム構築のコスト増加を抑える工夫が必要。
- 標準化の活動と並行してビジネス化を見据えつつ進めることが重要。もう少しビジネス化にコストを割いてもいいのではないかと。

- ビジネスプロデューサーを中心に、標準化の「後」の検討にもしっかり取り組んで頂きたい。ビジネスプロデューサーが参画研究者をとりまとめ、標準化の「後」も見据えた開発に多くのリソースを配分することで、本研究開発の意義をより明確にすることを期待したい。
- ビジネスプロデューサーが市場を見据えて、ビジネス化に向けた研究開発実施のフレームワークを明確化し、課題間で共有した上で研究開発を進めるべき。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム

目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価 4

(総論)

W3C(World Wide Web Consortium)にてWoTに関するWGの立ち上げに尽力しており、標準化における実績を上げている点を評価。

WoTについては、競合する事業者等も多いことから、早急なビジネスへの適用が求められる。

(コメント)

- W3Cの中にWGを立ち上げるなど、標準化で実績を上げていることを評価。
- 標準化活動やシステム設計及びシミュレーションによる確認等が順調に進んでいる。
- WoTについてはライバルも多いことから、早急のビジネスへの適用が求められる。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

特段の問題点はなく、適切な予算執行がなされており、妥当と判断する。

(コメント)

- 特段の問題点は見受けられない。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価 4

(総論)

研究成果を普及させるためのフォーラム活動等を早い段階から視野に入れ実行している。
また、W3CにおけるWG活動も積極的に行っており、成果展開に向けた計画を立てている点を評価。

(コメント)

- 研究成果を普及させるためのフォーラム活動等を早い段階から視野に入れている。
- W3CにおけるWG活動等、積極的な展開を計画している。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

平成28年度実績及び平成29年度の実施計画に基づいた妥当な計画となっている。

(コメント)

- 特段問題は認められず、実績及び計画に基づいた妥当な計画である。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価 3

(総論)

平成28年度実績に基づいた妥当な計画である。

社会実装を目指す上で、ビジネスプロデューサーによる市場動向や技術動向を踏まえた方向性の検討等、ビジネスプロデューサーの役割が重要。

(コメント)

- 特段の問題点はない。
- ビジネスプロデューサーの役割が重要である。